

氏名	長 原 忠 美
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 2 8 9 号
学位授与の日付	昭和44年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	Rauscher Leukemiaの免疫学的研究 第Ⅰ編 Rauscher Virus Vaccineによる Rauscher Leukemiaの予防実験 —脾腫, 末梢血液像, 病理組織像並びに電顕所見について— 第Ⅱ編 Rauscher Virus Vaccineによる Rauscher Leukemiaの予防実験 —その血清蛋白像の推移について—
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 大 藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第Ⅰ編：BALB/c 系マウスを用いて Rauscher Virus Vaccine により Rauscher Leukemia の予防実験を行った。即ち Vaccine 接種マウスに Rauscher Virus を Challenge し以降経時的に行った末梢血液像, 病理組織像の検索より白血病の発症の有無を確認し, 高率に白血病の発症を阻止し得た。また電顕により脾内 Virus 粒子を観察し, Challenge された Virus 粒子は血中の中和抗体により障害をうけ, 巨核球空胞内に未熟型 Virus 粒子としてとどめられるという結論を得た。

第Ⅱ編：第Ⅰ編と同様の実験系において, 白血病の発症から進展過程における血清蛋白分画の変動を, セルローズアセテート膜による電気泳動法を用いて経時的に検索した。

免疫処置により 血病の発症を阻止し得た群における β -gl, 及 γ -gl, の増加は腫瘍に対する宿主の反応であり, 白血病発症以後にあらわれる異常分画は腫瘍側の因子の何らかの反映であるという結論を得た。

論文審査の結果の要旨

本研究はウイルス性マウス白血病に対するウイルスワクチンによる予防について実験的に研究したものであるがワクチンにより白血病の予防の可能性を示唆する結果を得たものであり極めて価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。